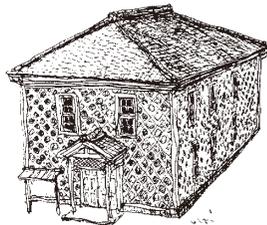


## 演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のルビッチ、デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

# 薬学教育改革と慶應義塾大学薬学部

高度医療の中で薬剤師が医療人として貢献するために必要なのは何かを、大学教員のみならず現場の薬剤師の方も含めて多くの議論を重ねた結果、薬学部は2006年に薬剤師養成課程を6年制とするとともに、4年制の創薬研究者養成課程も設置しました。当時、本学は合併前で4年制課程を設置するか大いに議論されましたが、最終的に設置が決まりました。その2年後に慶應義塾大学薬学部は共立薬科大学との合併で発足しました。教育改革から11年目、発足から9年目を迎えています。教育改革は現在も進行中です。合併についても制度的な統合は終了していますが、教育、研究面でさらなる協力体制の構築が必要です。

この教育改革は、ある意味において私立と国公立の乖離を生み出しています。私立は薬剤師養成が中心であり、4年制学科を設置しているのは57学部中、本学を含む15学部のみです。一方、現在、全ての国公立は両学科を設置し定員総数も4年制学科の方が多く、研究者養成に傾いています。

● 常任理事

増野 匡彦 ましのただひこ

私は薬剤師養成教育のモデル・コアカリキュラムの策定・改訂に参加するとともに、薬学教育に関連した法人の理事として教育改革に関わっていますが、薬が人類に貢献するには優れた薬の創製と、その適正使用の両者が不可欠と考えています。高い効果の薬ほど使い方が難しく、場合によっては重大な副作用につながります。よって、慶應義塾大学薬学部には薬剤師養成、創薬研究者養成のいずれも重要です。そして、本学部は他の私立薬学部とも国公立薬学部とも異なる、薬剤師養成と創薬研究者養成のバランスがとれた理想的な薬学部として日本の薬学を先導する必要があります。薬剤師養成においては慶應義塾大学病院ならびに関連病院での実習、医看薬三学部合同教育を行っており、これに加えて病院薬剤部とのさらなる協力体制の構築が進んでいます。また、創薬研究者養成では医学部、理工学部等との連携をさらに進めることが重要です。いずれの分野においても本学薬学部卒業生はまだ若く先導的立場になるにはまだ時間がかかりますが、今後の活躍を楽しみにしています。